

日本理論心理学会 第61回大会
公開シンポジウム

心理学
に未来
はある
か？

第1部 11/14(土) 14:00-17:30
心理学の将来のあり方
を考える

企画 菅村 玄二 (関西大学)
話題提供 武藤 崇 (同志社大学)
北村 英哉 (関西大学)
山本 哲也 (Univ. of Pittsburgh)
實川 幹朗 (姫路獨協大学)
指定討論 森正 義彦 (岡山大学)
サトウタツヤ (立命館大学)

第2部 11/15(日) 13:45-17:15
心理学の将来の方法論
を考える

企画 菅村 玄二 (関西大学)
話題提供 坂入 洋右 (筑波大学)
鈴木 平 (桜美林大学)
村川 治彦 (関西大学)
繁榘 算男 (帝京大学)
指定討論 福島 宏器 (関西大学)

会場 関西大学 千里山キャンパス
第1学舎 5号館 4階 E403

参加 1日 (500円) , 両日 (900円)
どなたでもご参加できます。当日参加も可能ですが、
できる限り、事前申込をお願いします。

連絡先：大会委員長 菅村 玄二 (genji@kansai-u.ac.jp)

60
周年

日本理論心理学会第 61 回大会

公開シンポジウム

心理学に未来はあるか？

第 I 部 心理学の将来のあり方を考える

企画 菅村玄二（関西大学）

演題 「心理学業界の確信犯的たくらみ」

北村英哉（関西大学）

「行動心理学は徹底的行動主義に徹底しているか：佐藤（1985）から考える『30年後』の未来」

武藤 崇（同志社大学）

「心理学は人間科学の未来を形作る：Bridge over Interdisciplinary Study」

山本哲也（Univ. of Pittsburgh）

「大風呂敷から小分け袋へ：思想史から見た心理学の成り立ちと未来」

實川幹朗（姫路獨協大学）

討論 「心理学史の立場から」サトウタツヤ（立命館大学）

「理論心理学の立場から」森正義彦（岡山大学）

趣旨 昨今、心理学の専門化と学際化が進んでいる。領域の細分化による専門深化によって、各分野の先端の研究が日々進歩する反面、心理学の全体を俯瞰することがますます困難になりつつある。その一方で、心理学内のみならず、近接領域を巻き込む形で学際化が進行し、認知科学や神経科学をはじめとして、異領域間の対話により、新たな知見も多くもたらされているが、裏返せば、心理学のアイデンティティ喪失につながる問題でもある。

もともと、これは単に「心理学」という学問名が将来も存続するのかという定義の問題、つまり名称問題と位置づけることも可能である。しかし、分野の区分が変わったり、心理学という名称が過去の遺物となったりしたとして、心理学の中核となる固有のテーマ、理論、方法、および実践は、今後も存続しうるのだろうか。第 I 部では、心理学の基礎と応用の領域について、近い将来から遠い未来まで見据えて、今後の心理学の行く末について議論する。

第 II 部 心理学の将来の方法論を考える

企画 菅村玄二（関西大学）

演題 「アウトカムを重視した応用科学独自の研究法 ～個人差と複雑な要因を無視しないための包括的媒介変数の活用」

坂入洋右（筑波大学）

「一人称の方法論の可能性：Process Model と認知意味論の視点から」

村川治彦（関西大学）

「複雑系の方法論の可能性：非線形力学系から東洋的心理学へ」

鈴木 平（桜美林大学）

「ベイズ的アプローチと心理学」

繁榎算男（帝京大学）

討論 「生理心理学の立場から」福島宏器（関西大学）

趣旨 望遠鏡の発明によって天文学が進歩し、顕微鏡の発明によって医学が発展した。このように、科学の進歩は方法の進化によって生まれることも少なくない。心理学は、基本的に方法論的多元論の学問であり、生理機器をはじめとした実験器具の登場によって進展した部分もあるが、それ以外にも、面接法、観察法、質問紙法などのデータ採取方法も多様であり、要因を統制する多くの実験手法が開発され、またデータの分析方法も、定量・定性を問わず、時代と共に進化してきている。

このような方法の進化は、裏を返せば、現在の心理学研究法が十分ではないことや、改善できる点があることを意味している。心理学の未来を考えるにあたっては、方法論的な検討は最重要課題の 1 つである。第 2 部では、心理学の理論、方法、および実践に深く関わる方法論上の問題に切り込み、新しい、もしくは代替的、あるいは補完的な方法論の可能性を模索する。